

令和2年度 病害虫発生予察情報

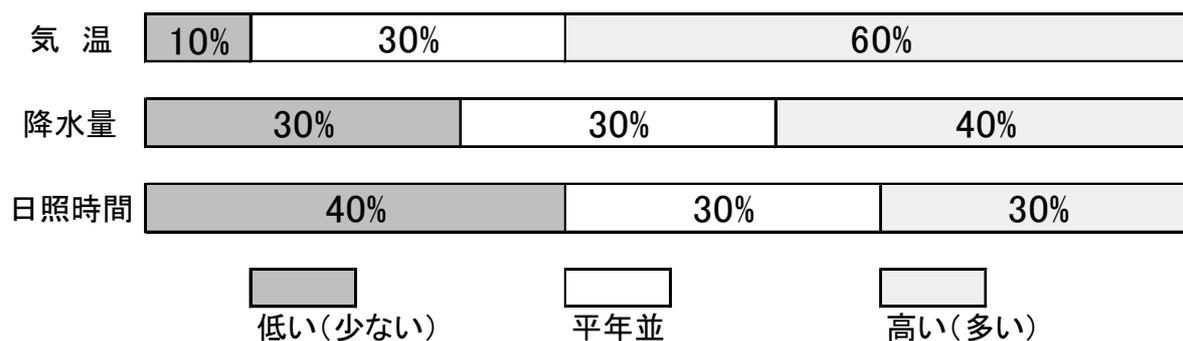
発生予報第4号（7月）

令和2年6月29日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	やや少ない～平年並		
		紋枯病	平年並～やや多い		
		縞葉枯病	平年並～やや多い		
		黄化萎縮病	平年並		
		ヒメトビウンカ	やや多い～多い		
		ニカメイチュウ	やや少ない～平年並		
		ツマグロヨコバイ	やや少ない～平年並		
		セジロウンカ	多い		
		トビイロウンカ	平年並～やや多い		
		コブノメイガ	多い		
		斑点米カメムシ類	やや多い～多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	やや多い
				黒星病	平年並
				シンクイムシ類	平年並～やや多い
ハマキムシ類	平年並～やや多い				
ハダニ類	やや多い				
アブラムシ類	やや多い				
カキ	円星落葉病			平年並	
果樹全般		カキミガ	平年並		
		カメムシ類	多い		

中国地方1か月予報(6月27日～7月26日・広島地方气象台6月25日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生時期

平年並

発生量

やや少ない～平年並

予報の根拠

① 6月上旬に実施した置き苗の調査(1440ほ場対象)での発生ほ場率は0%(平年0.5%)であった。

- ② 6月23日に本田での初発生を認めた。
- ③ 6月下旬の巡回調査（70ほ場）では発生を認めていない（平年の発生ほ場率1.0%、発病株率0.3%）。
- ④ 常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。
- ⑤ 向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査（70ほ場）では、発生ほ場率は1.4%（平年0.9%）、発病株率が0.1%（平年0.0%）と、発生量は平年並みである。
- ② 6月23日に本田での初発生を認めた。
- ③ 常習発生地の一部では育苗箱施薬が行われている。
- ④ 向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) 縞葉枯病

予報内容

発生地方 県内全域
 発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 媒介虫のヒメトビウンカの発生量はやや多いと予想される。
- ② 4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（過去10年の平均1.3%）と低い。

(4) 黄化萎縮病

予報内容

発生地方 常習発生地
 発生量 平年並

予報の根拠

- ① 近年、本病の発生は少ない。
- ② 6月中旬に感染に好適な降雨があった。
- ③ 向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
 発生量 やや多い～多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は32.6%（平年26.9%）、捕獲数は1.8頭/50株（平年1.1頭）で発生量は平年と比べやや多い。
- ② 6月第4半旬までに予察灯（出雲市）への誘殺は認められないが、6月第1半旬にネットトラップ（出雲市）において1頭捕獲された。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。

(6) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、被害株率は0%（平年0.16%）で発生量は平年と比べやや少ない。
- ② 6月第5半旬までの予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。

(7) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は10.9%（平年33.1%）、捕獲数は0.6頭/50株（平年2.2頭）で発生量は平年と比べやや少ない。
- ② 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。

(8) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 6月第5半旬までに予察灯（出雲市）で12頭（平年0.4頭）、粘着誘殺灯（出雲市）で24頭（平年1.2頭）といずれも平年と比べ早く、誘殺数は平年と比べ多い。
 - ② ネットトラップ（出雲市）で6月第3半旬と第5半旬で確認された。
 - ③ 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は80.4%（平年31.8%）、捕獲数は8.2頭/50株（平年3.5頭）で発生量は平年と比べやや多い。
 - ④ 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。
- 注) 令和2年度 ウンカ情報 第1号 参照。

(9) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月第4半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）で誘殺されていない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認められない。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 6月第4半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）で誘殺されていない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は6.5%（平年0%）、捕獲数は0.1頭/50株（平年0頭）で発生量は平年と比べ多い。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。

(11) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い～多い

予報の根拠

- ① 6月第5半旬までに予察灯（出雲市）でアカスジカスミカメが76頭（平年12.4頭）と平年に比べて多い。
- ② 6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では斑点米カメムシ類合計で発生ほ場率は70.5%（平年63.4%）で平年並みだが、捕獲頭数は12.4頭/20回振り（平年8.5頭）と発生量は平年と比べやや多い。主要種はアカスジカスミカメである。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。

注) 令和2年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第2号 参照。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は9.9%（平成6.4%）であり、発生量は平年と比べてやや多い。

② 向こう一か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は1.0%（平成1.0%）であり、発生量は平年並みである。

② 向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平年並み、誘殺数は平年並みである。

② 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 県予察ほ場（出雲市）のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺時期は平年並み、誘殺数は平年並みである。

② 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。

(5) ハダニ類

予報内容

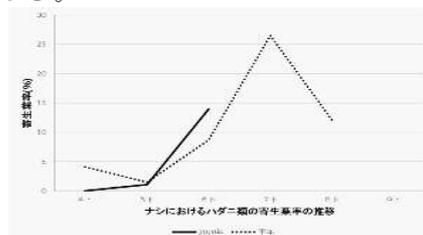
発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 6月下旬の発生量は寄生葉率14%（平成7%）、寄生虫数28.6頭/50葉（平成19.2頭）と平年に比べてやや多い（右図参照）。

② 向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。



(6) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

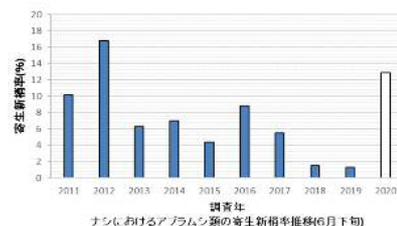
発生量 やや多い

予報の根拠

① 6月下旬の寄生新梢率12.9%（平成7.6%）、寄生度3.8（平成3.1）と平年に比べてやや多い（右図参照）。

② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。

③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。



2) カキ

(1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量(感染量) 平年並

予報の根拠

①前年の発生は平年並みで、伝染源量は平年並みと考えられる。

②向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ(第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

①前年の第2世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。

②向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

3) 果樹全般

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域(特にナシ無袋、カキ栽培地帯)

発生量 多い

予報の根拠

①6月第6半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は612頭(平年値145.3頭)と平年に比べて多い。

②向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

農薬の安全使用の徹底を!

- ・農薬の使用基準(適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数)を遵守する。
- ・防除履歴(使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量)を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散(ドリフト)しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病虫害の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病虫害防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病虫害防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>